

平成 26 年度
第 5 期中原区区民会議 第 3 回課題調査部会

日時 平成27年 2月 2日 (月) 10 : 00～

場所 中原区役所 3階 505会議室

第5期中原区区民会議第3回課題調査部会 摘録

- 1 開催日時：平成27年2月2日（月）午前10時～12時
- 2 場 所：中原区役所5階505会議室
- 3 出席者：：成田部会長、松本副部会長、井上委員、園部委員、塚本委員、中森委員、仁上委員、萩原委員【委員8名】
（事務局）小野副区長、今井企画課長、江口係長、西山職員【企画課】
岩下さん【コンサルタント（㈱カイト）】
- 4 議題等
 - ・議題 検討テーマ「地域コミュニティ、みんなでまちをきれいに」に関する調査検討について
- 5 傍聴者 なし
- 6 会議内容
 - ・会議録確認委員の選任（進行：成田部会長）
部会名簿順により、第2回課題調査部会会議録確認委員は塚本委員を選任。
 - ・検討テーマ「地域コミュニティ、みんなでまちをきれいに」に関する課題検討について
（進行：岩下（コンサルタント（㈱カイト））
まず、資料1「検討事項・到達目標について」に基づき、取組・提案の絞り込みという今回の到達目標、討議の進め方の手順等を確認し、続いて、資料2「課題解決に資する提案のまとめ」に基づき、これまでの課題調査部会、全体会議、運営部会で出された意見・アイデアを総合的に整理し、13の提案にまとめた資料が再提示（全体会議でも提示済）され、その内容を再確認した。
最後に、資料3「取組提案の絞り込みに向けた検討事項の整理」に基づき、実践的な9つの提案について、それぞれ要検討課題や、絞り込みに向けての論点が示され、以降、その内容を踏まえながら意見交換を行った。
【質疑応答・意見交換】
中森委員 この前の全体会議で、部会に参加していない委員で「会議で意見を求められても何を話していいのかわからない」という意見を個人的におっしゃった方がいた。例えば子どもに関わる取組だったら教育委員会、ごみであれば環境局に協力をいただいて、一緒に取り組むことが大事ではないか。また、「自分が小さいときには、子ども会で毎週のようにごみ拾いをしていた。そんな取組ができるようになったらいい」という御意見もお聞きした。
萩原委員 啓発人形劇事業の実態がわからないのですが、川崎フロンターレの予算で行われているのか。
井上委員 今年と昨年の2年間、区の市民提案型事業に応募し委託契約をして、私が所属する「中原アシストクラブ」で行っている事業である。川崎フロンターレのバックアップももちろんもらっている。来年度の市民提案型事業の応募について先週が企画書の締切だったため、申請資料を既に提出している。きっかけは、人形劇団ひとみ座さんが中原区にいて活躍していたことで、川崎フロンターレのキャラクターであるフロンタくんの人形劇というツールを持っている。「子どもたちに対

して啓発したいものがあれば活用できるといった働きかけを、区地域振興課を通じて区役所の組織全体に確認してもらったところ、一昨年度、こども支援室から、子どもの生活リズムの啓発をという要望をいただいた。そこで、区内の公立保育園8園で各1回、加えて区内のイベントで1回の計9公演の啓発人形劇を行った。現在は公立保育園が1園減ってしまったため、8回公演となっている。予算は、約80万円。内55万円を委託で、残りは中原アシストクラブで出している。今回、区民会議の審議を受けて、より多くの人に広げたいという相談をこども支援室にさせていただき、公立だけでなく、より多くの保育園児をどうやって集めるか考えていただいたところ、入学前の年長児童を区内から広く集めるイベントがあるので、そこで展開してはどうかというお話しをいただいた。市民館で5回に分けて行われる予定であり、そこでの公演を計画している。残り3回についてはどこの場で行うか検討中である。ただ、もっと行き渡らせるためには公演回数を12回に増やしたい、その予算をどうするかという話も出ている。

区民会議委員でもある私が関わり、実績と来年度実行する土台もあるので、乗っかっていただければと思う。細かい内容について、台本などはアシストクラブとひとみ座さんの方でこれから詰めていく予定なので、どんなメッセージにしたいのかなど、この会議で話し合ってお話いただければよりつくりやすくなると思う。例えば、分別なのか、まちのポイ捨て防止なのか、区こども支援室の方に各園での実態なども伺いながら進めていきたいと考えている。

成田部会長 時期的な問題で、少し先行する形にはなっているが、ぜひ進めていただきたい。人形劇という形式は子どもたちに広く伝えていく意味でもとても良いと思う。子ども向けに中原区のきれいなところも伝えていただきたいと思う。展開場所については、前期の区民会議の提案である「子育てふれあいカフェ」を継続、発展させていく中でこの人形劇を盛り込むようなことも良いのではないかなと思う。また、「ごみ分別検定」は難しいかもしれませんが、「分別釣りゲーム」くらいであれば、人形劇を見た後に実践を体験するような流れもできそうである。

一つ気になっているのが、当初に障害者や外国人の方とも一緒に取り組むという視点が欠けてしまっていること。分別ゲームを考えるときに外国語表記等も踏まえたものを作成すれば、一緒に取り組めるのではないかなと思う。

事務局 関係部署については、必要だということになれば、お願いをして部会に出席いただくことも可能かなと思う。

井上委員 私のこれまでの区との連携事業の経験から言うと、関係部署についてはこちらのアイデアが固まった段階で投げかける形が良いかなと思う。地域の実情は行政よりも地域の方が知っていたり、新しいアイデアを持っていたりする場合がある。協力をお願いするというよりも、必要に応じてこちらから声をかけるという方がスムーズかなと思う。

「エコ暮らしカフェ」というイベントでは、区でエコカフェとして出展いただいている。今回については、様々な取組案が出ているので、例えばこれらをより広めるための広報などで、関係部署にお願いするような形があるかなと思う。

事務局 課題や提案の内容によって、どうしても区だけでは解決できないもの、他の部

署の協力が必要な場面も出てきた場合は、区の方からも協力依頼をさせていただく。実際に可能かどうかや、内容、方法等については相談の上で決定していくことになる。

松本委員 中原生活環境事業所や各地域のごみ減量指導員との連携・協力は必要になりそうだ。地域のごみの現状も現場で触れ、一番理解されている方々である。例えば分別ゲームができたなら、その活用や普及については、ぜひごみ減量指導員を巻き込んでいきたい。私もごみ減量指導員の一人である。

仁上委員 まちをきれいにしようというテーマを考えると、ごみ問題は、生活の根底にある課題の一つ。ごみ分別の大切さを子どもたちに伝えたい。人形劇の台本では、分別されたごみがどうやってリサイクルされ、生活の中に再生されていくのか、それを伝えていくのが大切なのではないか。

もう一つの問題意識は、今、汚くなってしまっているところをなんとかきれいにしたいという思いだ。ごみ減量指導員や町内会との協力しながら、きれいなごみ集積所が達成されると、地域コミュニティも自然と深まっていくだろう。アンケート調査を有効に活用しながら、働きかけをしていきたい。

手法については、誰かがずっと集積所を見張っているわけにもいかず、告知を細かくしていくしかないのではないか。「区民会議でこう決めた」ということを繰り返し告知していく。今後、夏に向かっていろいろなイベントがあるが、必ずごみが出る。その場で分別の徹底などもPRになると思う。

萩原委員 イベントをどこかででき、そこでアンケート調査の集大成としての紙媒体などが配れると良いなというイメージを持っている。さらには頑張っている団体にもその場でアワードを与えて表彰し、川崎フロンターレのキャラクターなども登場させる。そういった形に集約できると良い。区の花パンジーや挨拶運動なども冊子に盛り込んでも良いと思う。ただ、どこまでやれるか。誰がやるのか、などを考えると、委員の方々も忙しい方々ばかりで難しい面もある。一から編集ともなると作業量は大変。区民会議のコンサルティング会社等に頼めると良いが…。人任せばかりなっても良くなく、難しいところである。

アンケートはやりっぱなしではなく、結果を活用することが重要。インターネットなどでの情報発信も良いが、紙媒体で残すことも必要かと思う。

井上委員 イベントや冊子も良いと思うが、誰が担い手となるのかということがポイントになる。イベントは誰をターゲットにするのかも重要。「まちをきれいに」という形でイベントを組んでも、いらっしゃるのはやはり関心の高い方々だ。私は、既存の区民祭などのイベントに乗せてもらうのも一つの方法だと思う。そうすればごみやまちづくりに関心のない方もたくさん集まる。冊子についても、つくることではなく、それをどれだけの人に見ていただくかが大事だ。そのルートがきちんと明確なのであれば、つくるべきだと思う。美化は今回に限らず、まちづくりの永遠のテーマの一つでもある。町内会等を通じて配布するのも一つの考え方もしれない。

萩原委員 今回のアンケートで返事をいただけた所をつないでいくような取組ができると良いと思う。何とかこぎつけたい。

成田部会長 漠然としているイメージを形にしたい。そのための手段を意識していく。ただ分別するのではなく、なぜ分別するのか、それが美しいまちにつながるまで到達しないと、ただやっただけになってしまう。

事務局（コンサルタント） 広報の方法はかなり重要なポイントである。他都市では冊子ではなく、定期的な広報紙、ニュースレターにしている例もある。また高津区では「ハートリレー」という事業で福祉に関わる区内の活動団体が、互いをリレー形式で取材して、HPで紹介する事業がある。限られた予算や人員の中でより効果的な形を検討していく必要がある。

塚本委員 人形劇は、ぜひ進めていただき、おまかせしたい。したがって、各団体がやっている取組についてはどんどん進めていただき、応援していければ良いので、あえて区民会議の取組とすることは必要でないと思う。
イベントは、意識が高い人しか参加しない傾向が確かにあり難しい面がある。アンケートで見出された、課題箇所をなんとかかしたいと思うが、コミュニティがうまくいっていない場所に対して、区民会議で何ができるかと考えると、特に画期的なアイデアがあるわけでもない。私は、まちの中に細かく何か作っていく方が区民の目に入るかなと思う。その意味では運営部会から提案された「区の花のプランターなどを区民の目に触れていく形にしていく」のは良いのではないかと思う。アンケート調査で、設置場所について、働きかけていっても良いのではないか。区民にとって、毎日目にする何かをつくりたい。花でも良いですし、啓発看板でも良い。花であれば、心もなごむ。汚れているところは、汚してもよいのだと思われる。そういうところに、区的意思として「ここはきれいにする」と何か示して、捨てにくくしていく。

萩原委員 「重点取組地域」というようなイメージか。

事務局（コンサルタント） 例えば「地域コミュニティ、まちをきれいに」という看板を設置するのも良いかもしれない。

塚本委員 マンションにしても、商業施設にしても、管理が決まっているところは大体きれいである。課題場所をどうやって地域できれいにしていくかである。

松本委員 イトーヨーカドーで、放置自転車が問題になっていた場所があったが、そこにパンジーのポットを設置したことで、無くなった。また、私の町会ではごみ集積所に、収集車が行った後や、収集がない日などにフラワーポットを置いている例がある。そうするとごみが捨てられたり、何かが放置されたりすることはまずない。地域には必ず数か所、汚れる場所があるので、そこに「きれいにしましょう」などの啓発看板が掲示できると良いと思う。丸子地区のガード下なども課題箇所である。20年構想の委員会でパンジーの配布なども年二回行っているが、こうした活動でまちを明るく、きれいにしていく。これを継続していく。

井上委員 看板などはフロンターレの選手に箒を持たせた写真などにすれば、より多くの区民の目にとまるかと思う。

事務局（コンサルタント） 人の写真や花があると汚しにくくなる傾向がある。

園部委員 皆さんの御意見を聞きながら、提案の絞り込みを考えていた。まず一つ目、「分別のゲーム」を検定など難しい形ではなく、やりやすい形にする。どうやって捨

てようか迷うなど、廃棄時に判断に困るものを中心に取上げ、親子で、イベントで取り組めるようなものにできると良い。分別を徹底していくことにつなげていけると良いと思う。

冊子は費用等の問題がありそうだ。冊子よりも、市や県のたよりに繰り返し掲載してはどうか。全ての区民に周知できるわけではないが、比較的目にする方は多いと思う。くどいくらいに繰り返してアピールしていけば、良いと思う。

もう一つは、啓発人形劇。実施の見込みもあるということで、とてもよいと思う。中原区の年長児童のほとんどに網羅される方法もあるということで、実施はおまかせの形になるが、「区民会議提案」ということでアピールしていただければありがたい。

井上委員 区民会議からの提案ということで、私の方もお願いをしているところだ。

園部委員 最後にもう一つ、区の木、区の花を活かした取組も良いと思う。花があると確かに気持ちにもゆとりができる。現在汚れてしまっているところや、困っているところに花が設置できると、効果的ではないかと思う。

事務局 既存のイベントだが、親子を対象にしたものでは、中原区では毎年10月に「なかはら子ども未来フェスタ」を開催している。これは一つの場になると思う。そこで人形劇や分別ゲームの展開も可能である。

課題場所に花のプランターを置く話だが、こうした実施費用、例えば苗の購入費等については、区民会議予算の中には含まれていない現状がある。予算に組み込むには、次年度に向けた予算請求が必要で、少し実施が先になってしまう。緊急性が高い事業をすぐ実施するための予算枠もあるが、これは区だけではなく、財政局とも調整しながら、用途を決めていることから執行できるかどうかは分からない。

仁上委員 ごみ集積所は必ず地域にあり、そこには分別日程などの掲示看板がある。優良などところにはその上に「優良集積所」というようなシールを加える、汚いところにはあげないというような形にすれば、自然に啓発されるような形にならないか。汚いところは放って置けば、今のままだ。当該地域の町内会に改善を働きかけることはできるのではないか。汚いところには警告カードを出すような…。

事務局 何をもち、「優良」と判断するか、行政が関わる場合には明確な基準が必要となる。その基準は誰が決めるのか検討するにはある程度の期間も必要となる。判断が必要な方法よりは、「きれいにしよう」などのメッセージ的な掲示内容にすれば、掲示に抵抗も少なくできるかと思う。

松本委員 特に汚れがひどい場所については、生活環境事業所から地域に働きかけ、「監視カメラ作動中」という看板を掲示する例がある。ただ、それでも捨てる人もいる。ごみ問題は日々の生活に密着している。中原区の5地区では、例えば住吉地区では平和公園など、それぞれ大きな公園がある。そこに地域の人が集まって、ごみ拾いや、ゲーム体験など啓発に取り組んではどうか。できるところからやってみ、合同の形になっても構わない。そこにごみ減量指導員にも関わっていただく。

普通ごみの収集が週3回から2回になった際に、集積所用の黄色いネット、箒や塵とりなども、希望した町会に配布され、少しずつは前向きな動きが出てきて

いるところだと思う。イベントをするのなら、地域性を考慮して地域単位で行い、それを関連づけていく。もしくは区民祭など大きな既存のイベントの中で行っていく。

先日の運営部会で指摘されたとおり、落書きや挨拶運動、世代交流なども課題。落書きについては、まちづくり委員で取り組んでいるが、中原区のまちの中の落書きは確かに目につくものがある。まちづくり委員会だけでは区内の落書きがなかなか消せない現状がある。駅近くの地下トンネルの壁面に落書きがされていたところの落書きを消し、子ども達が描いたポスターを貼った例もあるが、人体や元の壁面にも影響の無い形で消そうとすると、相当の時間や技術がかかる。地域の町内会と連携して取り組んでいく必要がある。町内会の掲示板にスプレーなどで落書きがされてしまっている例もある。

事務局 (コンサルト) そろそろ提案の絞り込みを行いたい。行政の関係局との連携、子どもをターゲットとしてはどうか、取組の推進・集大成としてのイベントの開催などいくつかポイントが出た。関連意見が多かった提案に絞り込むということにした場合、「ごみ分別ゲーム」「人形劇」などの取組で分別の大切さや意味を子どもをターゲットに伝え、大人世代にも波及させていく。ごみ関係ではこの二つの提案は残しておくべきかと思う。

ごみ以外の提案については、「区の花・区の木」を活かした活動について、いくつか意見をいただいた。挨拶、落書き消しについても少し意見をいただいた。きれいなまちづくり全体の取組では「啓発看板設置」に意見が集中していた。ただし、その内容については、「優良箇所を設置する」「課題箇所を設置する」「啓発メッセージ的なものにし、広く設置する」などの意見が出た。「区民会議」という文字も入れる形も良いと思われる。「活動団体等の情報冊子」については、担い手や手法等検討の必要はあるが、集大成的な意味でもなんらかの情報発信はしたいという思いは共通しているのかなと思われる。今、申し上げた比較的意见が多かった提案に絞っていけば、4ないし5つの提案に絞り込みができそうだ。

事務局 区役所に寄せられる苦情や区民の方からの声で多いものの中に、「街路樹の下草が伸び放題になっていて荒れている」「どこの公園にごみが捨てられている」などがある。こうした問題については、なかなか行政だけでは対処できず、地域による管理運営協議会や愛護会が立ち上がっていない箇所については、組織化を推進することで「きれいなまちづくり」ができないかと考え、事務局提案で入れさせていただいた。この提案を残すかどうかは委員の皆さんの判断になるかと思うが、この課題解決の提案についての考えを、説明させていただいた。

井上委員 モデル集積所の意見は出なかったが、私は良いかなと思っていた。課題のある集積所で展開できれば効果もあるのかと思う。ただどういう形式にするのかどうかは検討が必要だし、予算の問題もある。例えば工場協会に御協力をいただくなどできないか。ただ、お金のことを気にしては何もできない。これだけの提案を絞り込んでいくには、ターゲットから絞っていくのが良いと思う。もやもやとしたままでは中途半端になってしまう。やはり子ども、次に関心の低い方というのがターゲットではないか。

中森委員 文化の違いもあるかもしれないが、ブラジルでは「良いところをほめて育てる」という考え方が一般的。これに基づくのであれば、良い、きれいな地域をもっと褒めて、こんな地域もあるとPR、紹介し、周囲にも意識させるということで、そこがモデル集積所になるのではないかと思う。取組の内容なども紹介できると良いと思う。アンケートでそういったところが見出せると良い。

萩原委員 まさにそこがねらいたいところで、そのためのアワード。もし可能であれば、区民祭でテーマとして打ち出せるとアピール効果が非常に高いと思う。「なかはら子ども未来フェスタ」も良いが、集まるのは子育ての現役の方々、子育てに関心のある方に限られており、区民祭にはより多くの方々が集まる。ステージで一部時間をいただき、全体のチラシにテーマを入れていただくなどできないか。会場も広いので、いろいろなことができそうだ。

事務局（コンサルタント） 区民祭は区民による実行委員会形式か。

事務局 そのとおりで、実行委員会で企画等の検討を行っている。

中森委員 ごみの分別などのブースは現在も出ていたと思う。そこから展開すれば良いのではないか。そこに分別ゲームを加えて、挑戦していただいた方に区の花パンジーの苗を配る。区の木については、何か地域清掃などの活動に取り組んでいただいた学校に対して、植樹をプレゼントするなどどうか。学校に桜や梅の木はあるのですが、モモの木は少なく増やしてほしいという意見も出ている。

井上委員 モモの木がなぜ、区の木になったのか。

松本委員 元々このあたりはモモの産地だった。丸子地区、小菅地区などを中心に多くの桃の木がかつてあったそうである。東京の方にもモモの産地として有名だったそう。ハナモモの木はその後、二ヶ領用水沿いに植えられ、モモの名所を忍ぶお祭りも行われている。神明神社のあたりだ。

萩原委員 稲毛米の3倍の値段で売れたので、みんな転換し、一面モモ畑だったそう。太平洋戦争の時に、お米や野菜など、食べられるものへの転換が促され、モモは切られてしまった。その後、そこが工場になり、さらにその工場跡が現在再開発で高層マンションになってきているという歴史の流れがある。

事務局（コンサルタント） 選ばれなかった提案についても、検討経緯やアイデアについては、報告書に掲載を残していく。また、いくつかの提案も組み合わせるものもあるかなと思われる。例えばモデル集積所は、看板設置の中で良い所をアピールしていく方向から盛り込んでいくことができそうである。区の木・区の花と管理運営協議会などの担い手を増やす提案も組み合わせやすそうである。

萩原委員 区民祭は毎年10月開催か。

事務局 10月の第3日曜日が定例となっている。

事務局（コンサルタント） 分別ゲームと啓発人形劇の提案は採用ということで良いか。

井上委員 実は人形劇を区民祭でできないかと働きかけたが、実現しなかった経緯がある。まず舞台は非常に多くの団体の出演希望があり、スケジュールに空きがない状況である。

事務局 アリーナの中などはどうか。

井上委員 検討したが、より多くの方々に見ていただきたいという意味から断念した。ど

うしてもメインの会場より人が少ない面がある。また人形劇については、屋外でやる際には雨風の問題もある。2年前に屋外でやった際は風が強くて大変だったこともある。未就学児をメインターゲットと捉えていたので、無理して区民祭で屋外でやらなくても良いだろうと判断した。

事務局 ミュージアムの入り口などではどうか。

井上委員 検討の価値はあるかと思う。昨年、中原アシストクラブで区民祭で取り組んだのは、自転車の運転マナー啓発だった。専修大学の学生とも組んで、彼らの企画でクイズをしたり、景品に観戦チケットを出したり、フロンタくんも登場して進行のお手伝いをしたり、選手にも登場してもらった。ここにごみの分別や美化をテーマとして持ち込むことも可能だと思う。ただ、学生たちも忙しいので、区民祭での1回かぎりのイベントにはなってしまうかと思う。

事務局 区民祭はやはりメインステージや模擬店の集積している場所が最もお客さんが多く、アリーナやミュージアムはお客さんが少ない。雨風の問題からも室内が良いということなら、区民祭ではなく、なかはら子ども未来フェスタが良いのではないか。

井上委員 なかはら子ども未来フェスタでやることについては、良いと思う。区民祭で展開するとしたら、分別ゲームなのではないか。そこで中原アシストクラブのボランティアの学生たちに手伝っていただくことも可能だと思う。

事務局 (コンサルタント) 分別ゲームについては、今あるものの現物を一度見て検討する必要がある。「分別ゲーム」、「啓発人形劇」「区の木・区の花を活かし、既存の団体とも連携しながら、地域の公園や花壇、街路樹の維持管理の担い手を増やす取組」「啓発看板の掲示をしながら、優良な地域を模範として紹介していく取組」の4つにする。そしてそれらの全体の推進のしくみとして、イベントや情報発信の方法を考えていく。こんなまとめ方でいかがか。一度その形でまとめてみて、次の全体会議、最後の課題調査部会で再度意見をいただき、まとめていきたいと思う。

松本委員 管理運営協議会、愛護会などの活動には、町会と道路公園センターが連携して活動している実態もある。区の木、区の花と組み合わせることもできそうだ。

萩原委員 事務局の御提案で良いと思う。

※一同了承。

・「きれいなまちづくり活動アンケート」について（進行：岩下（コンサルタント（株）カイト））

資料4に基づき「きれいなまちづくり活動アンケート」調査の調査票のたたき台案、実施方法等の案が示され、意見交換を行った。

【質疑応答・意見交換】

萩原委員 解答例の提示はない方が良いと思う。記入欄がさらに小さくなってしまいうことと、例に引きずられて同じような回答になってしまう恐れがある。自由に書いていただいた方がよいと思う。

成田部会長 好きな場所と課題と思う場所については、解答欄を分けた方が良いと思う。その方が書いていただけると思う。

事務局（コンサルタント） 解答欄を大きくするには、調査票をA3版にすることを検討して良いと思う。

塚本委員 町会が対象から抜けているので、入れるべきである。

事務局（コンサルタント） 町会は例えば、町内会の会合で配布、回収という形になるか。

松本委員 5地区の町内会の会合がある。そこにまず話を通すことになると思う。現在、全部で75町会になるが、総会は5月となる。

仁上委員 郵送費用はないということだが、配布方法はあるのか。

松本委員 回覧物と合わせて配布する方法がある。月2回回覧物がある。各地区長に話せば良いと思う。地域振興課の管轄である。

事務局（コンサルタント） 今日いただいた意見を基に調査票を固め、できるところからどんどんやっていくということになるかと思う。配布先によっては、3月中の回収は難しいかもしれない。3月中に回収できた分については、今回の提案内容に反映させることも可能かと思う。

萩原委員 活動紹介について尋ねる設問は調査票の最後にしても良いかと思うが、最初のページに持ってきた理由は何かあるのか。

事務局（コンサルタント） 最後に置くことも検討したが、最後だと見落とされたり、回答していただけなかったりする可能性があると考えた。時間をかけて回答してくださる方ばかりではない。

萩原委員 4番の設問、美化活動以外の地域の活動について尋ねる設問は、どのような意図か。

塚本委員 幅広い答え方ができる設問であり、回答に迷いそうだ。

事務局 幅広い「まちづくり活動」や今後のテーマ検討にも資する情報を得る意図で設置してみた設問であるが、今回のテーマに絞り込もうということであれば、落とすのも一つの判断かと思う。

萩原委員 落とせば、先ほどの優良箇所と課題箇所が一緒になってしまっているという指摘もスペースを確保して、解答欄を分けることができそうである。

井上委員 1ページ目の上部に記載されている調査の進め方に関する記載は、実際の調査票からは外されるのか。

事務局 そのとおり。

松本委員 例えば公園でのフリーマーケットを町会でやっていて、赤ちゃん用品の再利用などを促進している活動など、この設問で回答していただく意図だと思う。

塚本委員 漠然としている聞き方なので、例えば地域のお祭りなど書いてくる例もありそうだ。聞き方が難しい。

井上委員 何回もアンケートをできるわけではないので、聞いておく考え方もあるが、確かに何を答えたらよいのかわかりにくい。無くても良いということであれば、削ってしまったほうが、アンケートの密度は高くなると思う。

- ・ 4番の設問は削除、3番の設問は優良箇所と課題箇所と解答欄を分けることで確認。
- ・ 今後の進め方として、2月中の配布開始を目標に、部会長及び最初の提案者である萩原委員に一任して調査票内容を調整して作成、最終案を各委員に送付して確認をとることを決定。

7 その他

2月19日(木)開催の運営部会で本日の審議結果を報告予定。資料内容の調整については、成田部会長と事務局に一任された。

次回課題調査部会の日程について、5月7日(木)、8日(金)、11日(月)、12日(火)を候補日に、今後、調整を予定。

また、委員を対象とした落書き消し活動の体験実施について、各委員の意向や都合等確認した結果、2月12日(木)午前中に行う方向で決定し、詳細については別途連絡することとした。

8 閉会

部会長より閉会宣言

以上